

(財)女性のためのアジア平和国民基金

第16回理事会

平成8年8月

Sex slave pay to begin in Philippines

A government-initiated private fund will begin issuing compensation payments to Filipino women forced into wartime sexual slavery by Japanese soldiers while victims from South Korea and Taiwan continue opposing the project, fund officials said Tuesday.

The Asian Women's Fund plans to soon publicize procedures for the women to receive the money — \$2 million each — through the Philippines news media and take applications, they said.

The foundation, which is based on private donations, hopes to begin payments as early as Aug. 15, the day when Japan surrendered to the Allies in 1945 and ended World War II, accompanied by a letter of apology from Prime Minister Ryutaro Hashimoto.

During an evening session of the 13-month-old foundation's board of directors, a panel reported that it would be difficult to offer the money to the surviving former "comfort women" from South Korea and Taiwan.

The task force sent officials to South Korea, the Philippines and Taiwan for a week up to Tuesday.

8/7 '96 J.T.

女性基金垂給、あす「告知」 延期決める

「女性のためのアジア平和国民基金」(アジア女性)

基金、原文兵衛理事長は、六日夜、韓国、フィリピン対象に、八日に予定していた支給開始の「告知」を延期することを決めた。国家補償を求めてきた被害者や支援団体が、五日までにそれぞれ現地入りしていた基金関係者の説明に納得しなかったためだ。

比の元慰安婦に一時金、先行支給も

「女性のためのアジア平和基金」(原文兵衛理事長)による元慰安婦への償い事業は、フィリピンの元慰安婦を対象に先行実施される可能性が強まってきた。同基金の有馬真喜子副理事長は六日夜の理事会後の記者会見で、これまでに同基金の一時金支給に反対の姿勢を示していたフィリピンの支援団体が、一時金受け取りを希望する元慰安婦を支援する体制を整えたことを明らかにした。

また、衛藤清吉副理事長は「八月十五日までにめぐり立たない場合には、めぐり立ったところから行動を取ることもやむを得ない」と述べた。

ただ、フィリピンでは、「償い金」(一時金二百万円)の受け取りを表明している元慰安婦を支援する委員会が六日に発足した。十五日までのスタートを目指してきた支給活動は、事実上フィリピン先行となる。

熊本龍太郎首相の名手紙にある「おわび」の表現について、理事会は、韓国の元慰安婦たちの感情に配慮し、「謝罪」を意味する朝鮮語に翻訳するよう政府に要請した。

一時金、比を先行

慰安婦基金、15日にも支給

元慰安婦の補償対策を検討している「女性のためのアジア平和国民基金」(原文兵衛理事長)の理事、協力が得られなかったと報

告。両国・地域への一時金支給は事実上断念し、一部関係者の理解を得られたフィリピンから先行支給する見通しが強くなった。

また基金側は一時金に添える「首相の手紙」のハンゲル訳の中に「謝罪」という言葉を入れるよう政府側に新たに要請した。

終戦の日(八月十五日)までは同時支給に向け努力するが、韓国と台湾の被害者、支援団体などの間には日本政府に対し国家賠償を求める声が強く、協力を得られるのは立っていない。

衛藤清吉副理事長は会見で「十五日を過ぎては韓国、台湾の受け入れ態勢が整わなければフィリピンを先行させることもやむを得ない」と語った。

国民基金は近く地元のフィリピンのメディアで支給手続を「公示」し、元慰安婦からの申請受け付けを始めた意向。早ければ十五日から熊本龍太郎首相の「おわびの手紙」を添えて一時金を支給することになる。

8/7/96 「過去」告発11日間の旅

「この人たちはいい人なのか、悪い人なのか」

成田空港に降り立った劉面煥さん(右)と李秀梅さん(左)は、目の前を行き来する日本人の姿に、動悸(どうき)が激しくなるのを感じた。日本に来たと思っただけで、昔の記憶がよみがえる。

二人は、日本政府に謝罪と賠償を求めて昨年提訴した中国人元慰安婦。七月中旬、山西省臨猗県から来日した。空港での会見には、ネクタイ姿の男性記者ら十人近くが集まった。劉さんらは、こわばった表情で、「中国の戦争被害者として裁判のために来ました」と叫びたまま、黙り込んだ。

その過去を、同じ村の人たちは、薄々知っている。た



笑顔を残して日本を後にした劉面煥さん(右)と李秀梅さん=7月25日午後2時30分すぎ、関西空港で

中国元慰安婦 来日して証言

が、劉さんが自分から話すととは、なかった。

四年前、長女が、そっと語った。「日本軍にひどい目に遭わされた人たちが日本政府に賠償を求める動きがあるんだって」

初めて過去を話した。長女は「その恨みはいつ晴らすの？」と泣いた。

戦後51年の夏から

生きていくためには仕方なかった。生涯好きにならなかったに賠償を求める動きがあるんだって」

法廷証言の二日後、東京都内で市民集會が予定されていた。劉さんは行くことを決めた。

死ねずに残った恨み 若い人は聞いてくれた

よく夢を見る。日本人に引かれ、叩かれる。捕らえられそうになって目が覚める。夜が明けるとのせいで待たされた。

日本兵に殴られて骨折した左肩は今も痛む。うまく接骨できず、左手は、右手より五センチ短くなった。

「純潔」が重んじられる環境の中だった。十八歳で、十歳年上の夫と結婚。夫は再婚で、貧乏だった。十年前に死んだ。

「処女じゃなかったから、

話が終わると、一斉に拍手がわいた。劉さんは少しびっ

くりしたように、自分もゆっくりに拍手して会場を見渡し、笑顔を見せた。

控室に戻ってから男性が話し放った言葉の意味を知らなかった劉さんは「そんな人もないのね」と一瞬げん顔を覗かした。すぐ、「でもね」と続け、「ほとんどの人は、そうじゃなかったわよね」と、確かめるように語った。

翌日の川崎市での集會も、最初は話すことを嫌がった。しかし、話し始めると、いきなり立ち上がり、呼びかけた。

「みなさん、見て下さい。私の左手はこんなに短くなっています。岩だらけの山岳地帯の小さな村に暮らす。野菜も米もできない土地で、アワのおかゆを食べる毎日。日本に来るまでは、奥野誠亮元法相の「慰安婦は商行為」発言も、日本政府が進める「女性のためのアジア平和国民基金」についても、知らなかった。とにかく、正式な場で自分の被害を訴え、謝罪と賠償を求めることができ

た。最初の経験だった。大阪市内で最後の市民集會が開かれた。劉さんは司会者の言葉を遮って、話を続けた。「みなさんに言いたいことがあります。聞かれもしないのに自分から話し出すのは、初めてだった。『日本の若い妹や弟たち。私が話したことは本当です。絶対にちもむと書えない。事実を知ってください』

ホテルの部屋に戻った劉さんは、取れた体を横にして、静かに話し続けた。「私はあのときに死ぬことができなかった。恨みもあんなに生きてきた。いいことなんて何もなかった。今も高齢の日本人男性は怖い。あのと話を思い出さずから。でも、日本の若い人たちがこんなに熱心に聞いてくれるとは思わなかった。気持ち少し楽になった」

その言葉に、「つらい夢はもう見なくなると思いますが」と聞いた。劉さんは遠くを見つめ、返事をしなかった。

十一日間の日本滞在を終えた劉さんは、もし賠償されたとしても、私はもう生きていないかもしれないわね。そろそろ言い残し、一月前に一度しか郵便が届かないという兵庫県村へ帰って行った。

(大久保 真紀)

Women's rights plan is promised

The government formally decided Wednesday to draw up a new action plan before the end of the year to promote sexual equality, following the recommendations of an official advisory body.

The panel, headed by journalist Yoko Nuita, submitted a report to Prime Minister Ryutaro Hashimoto on July 30 calling for legislation and other steps to combat sex discrimination in Japanese society during the period up to 2005.

Hashimoto endorsed the report's objectives, saying, "creating a society that enables men and women to jointly participate in its shaping is one of our most important policy issues."

The report says the government "should expedite studying a basic law to promote realizing a society in which men and women jointly take part" to meet quickly changing societal needs.

8/8 '96 J.T.

Seoul says no to sex slave fund request

SEOUL (Kyodo) South Korea has rejected requests by a Japanese government-initiated fund to make public a list of surviving South Korean women forced into wartime sexual slavery for Japanese troops, a Foreign Ministry official said Wednesday.

Members of the Japanese group asked for a list of surviving former sex slaves, euphemistically called "comfort women" in Japan, so that the fund could directly contact the women to offer them compensation of ¥2 million each.

"The government's position is not to cooperate with any request by the Asian Women's Fund for Peace until a consensus is built between the victims and their support groups, and Japan's fund officials," the Foreign Ministry official said.

8/2 '96 J.T.

難航する現地説明

元従軍慰安婦への償い事業

元従軍慰安婦への償い事業を行うためにフィリピン、韓国、台湾に対話チームを派遣していた「女性のためのアジア平和国民基金」(アジア女性基金、原文

兵衛理事長は六日夜の理事会で「フィリピンへの支給態勢はほぼ整った」としたが、台湾では被害者と面会することさえできず、韓国でも一時金の受け取りを表明した被害者はまだ「二人以上」であることを明らかにした。基金側が目標としてきた「三方国・地域での事業の同時開始」はこれで事実上不可能となった。

韓国受け取り「2人以上」 台湾面会もできない状況

基金側は六日夜の記者会見で「(事業開始のめどとして)八月十五日までは各団体に並んだ努力を続ける」と(副理事長長)と強調しながらも、韓国では被害者団体から十分な理解が得られなかったことを認めた上で、次回の韓国への対話チームの派遣は八月末になることを説明。台湾については「当面、事態を静観する」とした。

人は一人以上、明確に拒否した人は二人」とし、拒否の理由としては「裁判で法的責任、個人補償を求め

る「や」韓国神社を参拝する橋本龍太郎首相からはいただけだ」「天皇の名に

るの公式謝罪を求める」などがあげられ、「その他の人々は条件次第では受け取れる意向とも見受けられ

た」と語った。その条件として高橋教授は「その前に真相調査をすべきだ①自分にインセンティブを付与②一時金二百万円と、医療・福祉事業三百万円分の五百万円を一括して現金でほしい」などだったと説明した。

また、台湾チームを代表して下村博子理事は、元慰安婦や支援団体と会えなかったことを認めた上で「被害者は一貫して国家賠償以外のものを受け取るわけにはいかない、国際連帯で支援者と一緒に闘う、この立場を崩していない。当面のところ、たいへん厳しい状況にある」と話した。

韓国対話チーム代表の高橋宗司・津田豊大教授は「十数人の被害者と話したが、受け取り意向を示した

女性基金反対 「国家賠償で」

韓国の市民団体

【ソウル7日】渡辺勉「戦争中に徴兵、連行された韓国の軍人・軍属や元従軍慰安婦、遺族らが集まる「太平洋戦争犠牲者遺族会」(遺族元会長)は七日、「女性のためのアジア平和国民基金」(アジア女性基金)が元従軍慰安婦らに一時金二百万円の支給を決めたことについて、「民間基金ではなく、国家的な償行に従い、日本政府が財政支出する国家賠償をしてほしい」などの要求をまとめた声明を発表した。

韓国マスコミ反発

金明基 慰安婦問題
「責任逃れのごまかし」

ワウルア日中歴史大 韓国マスコミは昨日、「女性のためのアジア平和国民基金」の対話チームが「元慰安婦の女性に一人200万円の『償い金』など同基金の事業を説明したことに極めて批判的な報道を行った。同基金の事業は、日本の政府と民間が精託した責任逃れのごまかしであり、元慰安婦への説明は、カネを押しつけるための「切り崩し」などというのが大筋の主張となっている。

聯合通信社7日、対話チームが韓国側の立場を無視したまま二時金給付の「強行」で慰安婦問題を「簡単に解決」しようと考えており、元慰安婦との個別接触で「被害者間の分裂を助長」し、「しつような説得」で、一部被害者が心を動かしていると伝えた。

また、韓国外務省は対話チームの協力要請を拒否し「個別補償は被害者と関連団体が納得できる方法で処理すべきだ」と主張したとも報じた。キリスト教系の多刊紙、国民日報も7日の一面トップで同題目の記事を掲載。テレビも同様の報道をしている。